

< 2018年度事業報告書 >

【概況】

本年度は、全体的に「危機管理」という新たな課題に直面した1年であった。そのため当協会の競技・普及・強化の各現場においてはその対応力が問われたが、加盟団体の皆様のご理解ご協力および協会理事、審判団、常任委員各位の尽力により、なんとか乗り切ることが出来た。危機管理に関わる事象として以下の2点が挙げられる。

1点目は、屋外競技であるボートが特に影響を受ける「気象条件の悪化」がもたらす影響被害とその危機管理である。ここ何年かを振り返ると、東京国体ではゲリラ豪雨の影響を受け大会最終日のレースが出来なくなり、夏場のレースでは突然の雷によるレース中断が相次ぎ、頻繁に上陸する台風にはレース日程の短縮を余儀なくされるなど、記憶に新しい。

さらに、今年は例年以上に高温注意報が発令される「酷暑」となり、その影響で熱中症等により選手関係者が救急搬送され、競技続行中止となる事象が屋外競技を中心に相次いだ。ボート競技においても、全国で競技日程の変更や中止の措置がとられた。

一方、戸田コースにおいては「藻の異常繁殖」によるレース・練習環境の維持確保が出来ない状態が夏季を中心に数か月間続いた。

勿論、コース維持管理に関わる埼玉県、戸田市、公園事務所、(公社)日本ボート協会におかれましては、藻刈船の投入等、コース環境の維持に尽力いただいた。加えて、当協会も加盟団体の皆様と(公社)日本ボート協会の呼びかけに応じ人海戦術による藻刈作業に協力した。まさに戸田コースを利用するオアズマン総出での対策により、影響の軽減に一定の成果があったことは既知の通りである。当協会大会運営においては、競技本部を中心に皆様に尽力いただいた結果、影響を回避できなかったが、最小限に抑えることができたことは大きな成果である。

しかしながら、現時点では熱中症対策も藻の異常繁殖対策も対応方法が確立できてはいないため、来年度はこれらが各本部、各事業の避けられない課題となる。

2点目は、当協会含む競技団体および選手を指導育成する加盟団体の皆様も直面する、コンプライアンス面での危機管理である。この点においてはこの場での具体的な事例事象を挙げることはしないが、他競技で生じた事態を鑑みるに、当協会としてはレースはじめ各事業各本部の活動において、加盟団体の皆様におかれましては活動現場での状況判断等がそのまま危機管理対応の必要性に直結するケースが起り得ることを実感した1年であった。

そのような難しい環境の中でも、国体においては天皇杯、皇后杯ともに準優勝獲得の朗報がもたらされたが、これは少年・成年に選手を派遣いただいた加盟団体ならびに出漕選手、所管の強化本部の理事・常任委員全員の成果であり、来年への手応えを大いに感じた。

普及事業においても、厳しい気象条件の中で各ボート教室はじめ各水域で地元と連携した活動を継続できたことは、ここ数年加盟団体および普及本部の皆様が着実に実績を積上げてきていただいた成果である。

2020東京オリンピック・パラリンピック（以下、オリパラ）の地元競技団体として次の活動を開始した。

- ・本年8月に開催する世界ボートジュニア選手権の組織委員会に協会関係者を派遣
- ・オリパラ後のレガシー活動に向け、東京都・組織委員会・(公社)日本ボート協会の「海の森競技場」整備に関わる打合せ会合に出席し情報収集等

今後、さらに具体的な活動と将来を見据えた検討を併行して進めなければならないことを確認した。

各本部の事業報告は以下の通りである。

1. 競技開催事業

別表1の通り競技会を開催した。

2. 普及事業

- ・今年も谷古盾争奪マスターズレガッタ、東日本マスターズレガッタ、小学生交流レガッタを開催し、老若男女がレースに臨み、ボートを楽しんだ。
- ・第2回東日本マスターズレガッタには初めて女子エイトがオープンで出漕してレースを盛り上げてくれた。

{男子エイト 9 クルー (女子エイト1 クルーオープン参加)、女子クォード1 クルーエントリー} 又、小学生交流レガッタは10 クルーがエントリーし、熱戦が繰り広げられ、戸田ボートコースでのレースを楽しんだ。

詳細は別表2の通りである。

- ・ボート競技の底上げと競技人口の増大を目的として、従来より多摩川、東大島、水元、日本橋川、東墨田の都内5拠点を中心にボート教室、各水域のローカルレガッタ、マシンローイングイベントを展開した。

詳細は別表3の通りである。

- ・今年度も中学生が全国中学生新人選手権競漕大会が台風接近の為、中止となったものの、全国中学生選手権競漕大会をはじめ、全国大会にて、大いに活躍した。
その他、小中学生、各ボート教室会員が各水域のローカルレガッタに積極的に参加し、活躍がみられた。

3. 強化事業

- ・東京都代表クルーのブロック大会、国体結果は、別表4、5の通りであった。
- ・当協会所属選手の海外大会への参加状況は別表6の通りであった。
- ・福井国体に向けて選手の強化、競技力向上を図った。
- ・ジュニア選手を対象に強化合宿および講習会を実施した。
- ・トップアスリート事業7期を無事終了し、3名がボート競技を選び、現在進学先の高校で部活動およびクラブチームで活動している。
- ・トップアスリート事業8、9期生については専門プログラムを実施。(2018年12月終了)

4. 事業報告の付属明細書

2018年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。